

令和7年度 伊那市立高遠北小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
なかよし学校 がんばり学校	(1) 相手を思っていて関わります (2) 「自分」と「友と」で考えます (3) 励まし合って鍛えます
	今年度の重点目標
	(1) 相手を思っていて関わります ・相手意識を持ち、創意工夫したり責任を果たしたりする姿を積極的に認め、自己有用感を育む。“自分たちの学校” ----- (2) 「自分」と「友と」で考えます ・ねらいを明確にした学習場面の設定(自由進度学習的要素、「チャレンジタイム」、協働的な学び等)を行い、算数科を中心に授業研究を進める。 ----- (3) 励まし合って鍛えます ・「やってみよう!」「応援しよう・してもらおう!」を合言葉に、友と支え合い、挑戦する意欲を育む。

総合評価		
○学校教育目標の具現のため左記を中心に児童の指導に取り組んできた。少人数のよさを生かし、学年の枠をこえて様々な場面で関わりをもち、なかよくする姿が見られた。 ○チャレンジタイムや自由進度学習の要素を取り入れ、個に寄り添った支援と児童による学習法の選択を大切にした授業研究に取り組み、日常の授業改善を行ってきた。各教科にわたって、表現する学習を大切にし、相手意識をもって伝えたり、音楽表現したり、作品で表すなどの学習に取り組むことができた。また、個の実態に応じた指導やくり返しの指導を行うことで、児童の学力の定着や向上にもつながってきている。地域の方のご指導や体験的な学習を行う機会をもつことができ、子どもたちが地域や地域の方との関わりを深める良さを感じている。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○児童会でやっている毎月の「いいとこさがし」や、通学班会での意見交換を通して友だちの良さや頑張りに目を向けることができた。 ○遊びや縦割り班の活動を通して、学年をこえて仲良くする姿が見られた。 ○教職員が重点目標という共通認識を持ち、相手意識を持たせる指導にあたりと同時に、適時適切な場で児童を認め、有用感を育んだ。	A a	○道徳や教育活動全般を通して、人権感覚を磨き、思いやりの心を育てていく。友だちが悲しい思いをしていないか、自分の言動の振り返りを大切にさせていく。 ○少人数での関わりの中で、固定した物の見方や考え方にならないよう、積極的に外に出かけて人や地域との関わりを持ち、広い視野を持って学習・活動が行えるように考えていく。学校内でも、連学年での活動を大切にいく。
○チャレンジタイム(ドリル学習)を日課に位置づけ、個に応じた学習に取り組んだ。 ○個に寄り添った算数授業の研究、協働追究場面の充実により、粘り強く学習問題に取り組む姿勢や他とともに考える力を育んだ。 ○自由進度学習的要素により、学習法の選択や進度を調整する自己調整力を育んだ。	A a	○自由進度学習が進められるような単元の決めだし、学習材の準備、評価法の決めだし等をすすめる。また表現の場を設定し、個の活動に留めない授業づくりを行う。 ○少人数の学習の中で教師との対話だけに偏らないよう、友だちとの関わりを工夫し、多様な見方や考え方を知って、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
○校長講話や担任によるあと指導、掲示物によって合言葉を位置づけるとともに、始業式・終業式における振り返りによって、児童に挑戦する意欲、意識を育んだ。 ○月目標を確認する集会を通して、学校全体で活動や目標を設定して取り組むことができていた(月々の目標、マラソン、大縄跳び等)。	A a	○全体での意識付け振り返りにとどまらず、児童が自分の取り組みを振り返る、個々の自己評価の場を設定し、さらなる意識付けを行っていく。 ○外遊びの充実、体を動かす時間の工夫など、体力向上のための目標を設定し、全校で取り組めるようにする。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	1 教育課程	○楽しく成就感のある教育課程の展開	○児童の願いや考えを中心に置き、個々につける力・伸ばす力を明確にした計画的な教育課程を展開しようとしたか。
		○特色ある学校づくり	○歴史と文化ある地域、豊かな自然、少人数であることのよさを生かし、特色ある教育課程を展開しようとしたか。
	2 学習指導	○「分かる授業」の実践	○「ねらい・めりはり・見とどけ」の3観点を意識した授業をしようとしたか。 ○自由進度学習の要素を取り入れ、児童の学習意欲、達成感の向上、自己調整力の向上に努めたか。
		○表現力の育成	○児童の表現力を高めるための授業展開ができたか。
	3 生徒指導	○児童理解に基づいた個々の児童への指導	○学年の枠を超えて、全職員で全児童を育てることができたか。
		○人権感覚の育成	○学校生活全般を通して、豊かな心の育成に努め、いじめの実態の把握及びいじめに対する措置が適切に行われたか。
学校運営	4 安全	○安全の確保	○安全指導がきめ細やかになされ学校の安全が確保できたか。
	5 地域と	○家庭・地域の方との情報交換	○通信などを通して学校の様子を積極的に知らせたり、情報交換をしたりして、家庭ときめ細やかな連携をすることができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○算数授業を中心に、個のつまずき等を明確に分析し、個に寄り添った支援、学習内容、授業展開を仕組むことができた。 ○自由進度学習の要素を取り入れた単元展開、学習カードや教材、ICTの活用、活動、個別支援などを工夫し、子どもの実態や願いに寄り添うよう努めた。「できた・分かった」を大切に、更に挑戦し高めたい気持ちにも応えていく。	A a	○今後も引き続き、あらゆる場面で個に応じた支援を丁寧に行っていく。 ○単元内自由進度学習の研究、推進。児童が自ら学習法を決めだして取り組み、自己調整力を身につけられるだけの材の準備を進める。 ○教材研究の時間を確保する。 ○授業を支える基礎学力の定着を図るため、ドリル活動の時間を設定する。
○児童の「○○したい」という願いからスタートする、総合的な学習の時間、探究活動の充実を図り、学校林を活用した授業展開、歴史博物館の活用、音楽劇等、本校ならではの活動に取り組むことができた。 ○地域の学習を進めるうえで、助言をいただける地域人材、協力者の新規発掘が課題である。	A b	○児童の考えをきちんと反映するためにも、考える時間を十分に確保する。継続を当たり前と考えず、児童数や時代に応じた変化を取り入れていく。 ○成果を自己・他者が評価し、次の活動につなげることを大切にしていく。 ○地域の協力者、ボランティアの募集を引き続き行っていく。
○算数を中心に児童一人一人の学習状況、定着度を分析して、個に寄り添った学習問題、個別支援の手立てを用意した。「わかる授業」の具現を図った。 ○自由進度の要素を取り入れた学習では、個がめあて(ゴール)をもって取り組んだ。個人追究から全体への広がりを意識した授業展開にも努めた。自由に相談したり、学習方法を模索したりする場を設けたことで、理解、自己達成感の向上が見られた。	B b	○細かな児童研究(定着度分析等)を引き続き行い、授業に活かしていく。 ○全校研究授業や一人一公開をはじめ、お互いの授業を気軽に参観しあい、互いに学び合うことを通して、授業力の向上に努めることを継続していく。 ○全職員で教科研究の方向を意識し、学年の見直しをもって指導にあたっていく。
○相手意識をもつことを常に意識させて取り組んだ。伝え方を考えながら発表や創作活動を行うことを通して、表現力を高めることができた。 ○図画工作では、小規模特認校教育コーディネーターと連携して、メリハリのある学習活動を行い、子どもたちが表現することに自信をつけた。	A a	○校内音楽会や始業式・終業式の発表などの行事に加え、月目標を確認し合う児童集会や日常生活において「相手に伝えること」を意識した発表の場を設け、経験を積んで考えを表現することに自信をつけさせていく。 ○小規模特認校教育コーディネーターと連携し、長期的な見直しをもって年間計画をたて、図画工作の学習活動に取り組んでいく。
○情報共有の機会を多くもつことができた。常に情報交換をし、支援体制や指導の方向を決め出すことができ、また、児童の良い姿もたくさん伝え合うことができていた。 ○学年の枠を越え、全職員で子どもたちに声をかけ、たくさん目で見守り支援することができている。	A a	○今後も全職員で情報を共有していくと共に、校内支援会議を設けて、指導・支援の方向を話し合い、統一した指導を行っていく。 ○校内支援会議の開催、職員会議における情報交換を通して、支援方向を全職員で共有する。
○なかよし旬間を設け、校長講話・福祉体験などを行った。 ○アンケートを元に、担任と相談する時間を確保し、話をしっかりと聞いた。 ○トラブルの解決では、互いの気持ちを考え伝え合うこと、困った時には誰かにすぐ話をすることを大切にした指導に努め、小さなことでも保護者と連絡を取り合った。	B b	○困ったことがあわばすぐに話せる場づくりを常に意識し、児童に呼びかける。 ○縦割り班活動や交流活動などを大切に、相手意識を持ち、相手の立場に立った言動ができるように、見守り、支援・指導をすると共に、教師自身の人権感覚も高めていく。 ○アンケートを元にした相談の時間を確保していく。
○通学班会では、季節や児童の実態に合わせて毎回丁寧な指導が行われた。また、バス通学については、バス停での待ち方やバス内のマナーや約束を指導した。 ○安全点検では、様々な危険の可能性を考えながら2人体制で行った。 ○避難訓練・交通安全教室・引き渡し訓練など、様々な安全に関わる学習の場で、事故や災害への意識が高まるよう努めてきた。	A a	○一斉下校時や通学班会での全児童に向けての安全への呼びかけにより、機を逃さずに指導していく。 ○日常から校舎内外、通学路やバス停付近を意識して見回り、危険の把握に努める。 ○けがや病気の対応には、丁寧に確認・対応し、保護者や関係機関への連絡を迅速に行うよう努めていく。 ○野生動物への対応についても職員への研修、児童への周知を行っていく。
○学級だより・学校だより・保健だより、図書館だよりなど、様々な通信を通して、児童や学校の様子を伝えたり、家庭や地域へのお知らせなどを伝えたりできた。また、連絡帳や電話などで、個別の連絡や対応も丁寧にすることに努めた。 ○「北子どもを守る会」は、地域の方とも貴重な意見交換を行った。	A a	○今後も、学級通信や学校だより・ホームページを通して、学校の様子を家庭や地域に発信していく。 ○地域の方との情報交換の場や地域とつながる機会を確保していく。

の 連 携	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材や保護者・地域の方に参画してもらった授業や活動をする事ができたか。	○総合的な学習の時間、花育、地域探検、地域を学ぶ日では、地域の方に講師としてご指導いただくことができた。地域に出かけたり来校していただいたりして、学習と交流を深めた。	A b	○今後も特色ある活動が持続できるよう、職員間の情報共有や引き継ぎをきちんと行っていく。また、「学校評議員会」や「北小子どもを守る会」の方に学校運営についてのご意見をいただきながら、地域とのつながりを大切にしたい学校運営を行っていく。			
	○職員の自覚	○服務規律や綱紀についての自覚は高くもっていたか。				○非違行為は絶対に起こさないという意識を継続してもてるよう、職員会時に短時間の研修の時間を設け、事例を読んだり、小グループでの話し合いをしたりした。学校長からの指導も受け、セルフチェックシートで毎月、自分自身を振り返るようにした。	A a	○非違行為防止について、引き続き、職員会議での研修の時間を位置づけ、事案等を取り上げ、全職員で確認していく。また、日頃から職員間で何でも話が出来よう風通しの良い職場づくりを行う。
	○自己研鑽・研修の工夫・改善	○自ら求めて、研修に臨むことができたか。(自己研修を含む)						